

郷村令條録續編

坤

7 3
7091
11



73
7091
11

A229
G69
11



< 2000-564 >

88-987

撫育

文政七申年

山自分方始在... 今所... 申十月十九日

申十月十九日

山... 伊东... 羽木...

十二月二日

大... 羽木...

十月四日

五井组
小侯组
本官组
片舌组
浪川组

右

名
组
目
长百姓
长百姓
长百姓
村
合

十月四日

形代口蓮女

先年

津巡見後山飯内村、為引立組、中合子、今不坐外邊、
山飯山、由也、者、出、出、去、
津釜駕、之、於、於、中、山、右、右、夫、中、後、後、後、久、及、方、初

後山飯内村、之上、安、御、中、後、山、右、右、夫、中、後、後、後、久、及、方、初
善、向、可、也、之、所、也、一、山、右、右、夫、中、後、後、後、久、及、方、初
津、飯、山、右、右、夫、中、後、後、後、久、及、方、初
津、飯、山、右、右、夫、中、後、後、後、久、及、方、初
津、飯、山、右、右、夫、中、後、後、後、久、及、方、初
津、飯、山、右、右、夫、中、後、後、後、久、及、方、初

先

山飯中村、為引立組、中合子、今不坐外邊、
山飯山、由也、者、出、出、去、
津釜駕、之、於、於、中、山、右、右、夫、中、後、後、後、久、及、方、初

疾速村方々に出立食并特之辰并細谷之若大
佛ノ教意おきし追々原示謹し波は振込申
佛の御帳 思召り当又民万取来り振込申下
法為金 佛心法意は速 佛也念はは是追々農
夫食外分位候は山修治も有るは成候方より
お借防へもす可ッテ為難也古も終之申し不
可申候及 佛神付度村仰之穀入内建下
穀取お借防候候もす可ッテ表之入與窮と若候
お借防候と申下候は遠波一可也若は申さ
候子も申しお借防候申下候は又波有るも
夫の佛教意も有るは若大前衆へ
万村に名も并長也、若大前衆へ

佛教意候、お心候候方所計り振込申下候
右へ返り候生息有難程、而若代者申下候
申下下

申下
形代中
形代中

一、村一、自合切、穀入内建下候修治
山切より、方来り十月迄、出立申下候
舟札 是追村、國教波立物而地、若是之
造候、一、是也、追々入、若用、候

一 叔追、山買上之米村、大小、妻、夫、食、借、下、り、り、

一 夫、食、貯、之、り、若、上、二、三、四、五、月、分、生、之、若、上、人、分、
叔、六、斗、追、之、毎、年、三、月、下、旬、山、貸、後、十、月、中、山、取、立、之、り、

一 少、子、人、意、夫、食、生、分、降、附、叔、借、叔、之、若、上、本、又、降、し、
升、礼、多、滞、後、後、以、叔、之、八、負、福、多、少、之、事、降、時、

淡、淡、山、連、一、下、り、り、

一 他、叔、借、年、數、男、女、在、十、五、年、上、六、拾、年、下、

一 他、夫、食、叔、借、之、事、上、米、八、利、叔、山、免、米、米、斗、上、各、以、

減、叔、を、添、上、納、一、改、り、り、

一 米、為、年、々、村、之、困、叔、并、山、貯、叔、之、内、山、貸、後、下、返、上、之、事、
村、之、山、立、り、叔、入、上、納、下、り、り、

一 降、味、下、米、組、合、之、内、有、之、山、貯、叔、山、貸、後、之、事、村、合、

一 希、改、運、送、山、貸、後、之、事、り、り、

一 叔、借、改、方、若、上、五、人、組、之、若、三、月、寄、合、之、事、以、下、族、名、而、石、
之、石、調、世、活、人、之、叔、之、若、上、上、持、出、叔、借、一、改、り、り、

一 先、礼、村、之、合、叔、換、三、人、之、叔、之、下、付、方、人、叔、換、下、り、り、

一 他、物、之、若、上、若、上、叔、借、之、事、而、在、叔、記、名、上、持、出、
名、之、一、帳、調、代、友、下、り、り、

一 叔、借、人、之、内、之、叔、持、出、之、事、上、返、上、之、事、若、上、五、人、組、一、月、
年、納、一、改、り、り、

一 毎、年、三、月、代、友、中、若、上、之、解、穀、入、之、事、叔、之、若、上、
後、三、月、末、方、代、友、後、十、月、中、返、上、叔、借、後、又、以、代、友、中、若、上、
改、更、り、り、

一 太、之、通、厚、一、降、叔、之、事、以、叔、山、借、重、之、事、以、叔、

一 去昔方叔村、本新言、平均波、不足有、以乃尚在
 後、言、之、穀、方、之、村、方、不足、之、村、中、山、後、若、不、抄、括、引、在、其、以
 川、尚、秋、有、立、近、之、事、物、之、言、括、引、在、海、根、山、計、之、方、以、其、夫
 其、大、之、言、不足、之、事、物、成、意、以、其、昔、之、言、中、父、之、方、以、其
 一 去昔村、別、姓、之、叔、之、言、以、其、人、生、所、以、叔、之、言、近、山、南
 一 山、之、南、為、其、所、當、分、七、斗、本、宮、郡、山、上、去、秋、出、買、上、法
 入、事、物、之、言、山、之、南、方、之、言、又、以、其、乃、之、方、以、其
 一 山、之、南、方、秋、種、叔、之、言、以、其、去、秋、米、之、言、納、法、其、以、其
 之、言、米、八、拾、石、九、斗、之、言、合、括、括、之、言、九、斗、八、合
 一 七、夕、去、昔、方、尚、秋、有、立、村、之、言、別、之、言、其、村、之、言、後、後、後
 一 法、叔、之、言、是、穀、之、言、本、以、其、乃、之、言、長、石、子、之、言、山、之、言、計、之、言、以、其
 一 本、宮、郡、山、七、斗、小、後、計、道、山、所、叔、之、言、其、八、不、在、前、根、先

在、山、之、南、下、山、以、其、南、方、之、言、合、括、之、言、可、也、以、其、入、事、物、之、言、括、引、之、言、可、也、

亥三月十日

丹羽卷耳
 三浦又右

文政十一年

光

所在、之、考、其、父、祖、亦、方、代、之、言、其、合、子、之、言、及、因、窮、窮、之、言、其、以、其、也、
 之、言、以、下、之、言、合、括、本、山、叔、之、言、其、以、其、年、前、之、言、多、其、以、其、也、不、以、其、也、
 一 法、引、用、之、言、其、蒙、仲、其、大、之、言、合、子、之、言、山、之、言、計、之、言、以、其、也、
 一 採、之、言、山、之、南、方、之、言、其、以、其、年、以、下、之、言、合、括、之、言、其、以、其、也、
 一 稅、其、以、其、年、之、言、其、以、其、也、其、以、其、也、及、其、以、其、也、其、以、其、也、
 一 以、其、也、其、以、其、也、其、以、其、也、其、以、其、也、其、以、其、也、
 一 以、其、也、其、以、其、也、其、以、其、也、其、以、其、也、其、以、其、也、

紀之上... 太之... 子三月

形代中

所奉中

形代中

天保三卯年

太之考天... 山月... 五月十日... 三浦又右

村

名

長百村

是

丹羽春年

殿様玄書

上様 恩百... 佛心... 思百... 佛心... 思百... 佛心...

卯月

初代中

初代中

天保三辰年

生育山内苗安之義之舟中連年ありて未だ十分も追村及
以村之味出之共家切並追村火泊舟未左之邊に以りて
舟中連年ありて共家切上之以自今之方も山内夜ありて
一葉切上味出共左之邊

生育
共百姓
世活人

泊尾家切左之邊

初日 葉切

上川舟村

入道管

他濱川組本跡

外本橋村

道ノ作

他小濱組之内

向島ノ村

汁道村内

一 吉田之内島切家系之村引分ヶ家山内義之助合置お以
出級多ヶ山味出之方あり
一 時流柄石出村之義之舟流之義神造佐兵衛人子實流

一 左之通沙下

一 泊以流心笔料

上吉人万五千人
下吉人万五千人
但重日定年南在

一 空体以茶代

上吉人七千人
下吉人五千人

一 供人若村地人是

- 一 若素吉人
- 一 陸持吉人
- 一 若乃吉人
- 一 山加吉人

羽本控花

- 一 百御持吉人
- 一 合相心笔持吉人
- 一 布吉人
- 一 岩吉人

之浦又左

- 一 木月
- 一 岩吉人

一 借名之人百連以万为持人是
太之通沙下

河津新中
形有印中

是

一合五分

一月五分

一月五分

一月五分

一月五分

一月五分

所在三子

月 四子

月 五子以上

右月二子

右月四子

右月七子 是近川續一兄弟十歳 右月八歳 右月九歳 右月十歳 右月十一歳 右月十二歳 右月十三歳 右月十四歳 右月十五歳 右月十六歳 右月十七歳 右月十八歳 右月十九歳 右月二十歳 右月二十一歳 右月二十二歳 右月二十三歳 右月二十四歳 右月二十五歳 右月二十六歳 右月二十七歳 右月二十八歳 右月二十九歳 右月三十歳

一合五分

一月五分

一月五分

一月五分

一月五分

一月五分

一月五分

一月五分

一月五分

一月五分

一月五分

一月五分

一月五分

一月五分

一月五分

一月五分

一月五分

一月五分

河津新中

仁布又十二月、母別し、月殺、山田
多子教、地、定、係、山田、並、色、
離、別、上、乳、來、山田、不、來、
一、名、同、者、費、又

所、立、生、育、七、刺、人
去、人、下、下、作、新

右、色、牙、己、月、生、育、山田、海、山田、及、新、り、
不、国、十、月、
下、

口、達、極、意
只、今、中、海、色、生、育、山田、及、新、り、
五、十、年、程、山田、作、新、教、新、意、難、信、
若、大、

少、何、程、ハ、哈、續、意、難、教、人、別、山田、村、
洗、一、下、及、新、之、自、然、
若、大、多、く、地、之、為、文、
不、行、海、丈、丈、一、育、赤、子、
此、故、育、之、意、ハ、赤、子、多、く、地、之、年、
上、之、を、對、之、ハ、心、痛、
之、故、
古、厚、七、刺、
上、之、を、
所、代、様、
役、人、大、
及、少、
一、統、
難、有、
山田、
及、
新、
り、
山田、
及、
新、
り、
山田、
及、
新、
り、

佛報云お寺より舟出する赤子厥扱す所なりやれんか
子救す格別にお情列す 佛歎と遊ひ遊りて生きたり
ある子おとせ近年引後人別格に御情に舟を載
しり尚ほ急は五七年前も格別にお情に舟を載しり
舟より尚ほ御情に舟を載しり

上にも度々申上げ候へども遠くお寺に近き安ん
汁の極きなり 佛報云と遊り遊りて生きたり
太生有し救ふにあらぬ中他は不少お救ひあり
ゆめ極きも格別にお情に舟を載しり
尚ほ止しりお寺に舟を載しり
舟より尚ほ相及合子る舟より尚ほ舟を載しり
舟より尚ほお寺に舟を載しり

此を之と述し舟より尚ほ舟を載しり
子にお寺に舟を載しり
佛報云と遊り遊りて生きたり
尚ほ止しりお寺に舟を載しり
舟より尚ほ相及合子る舟より尚ほ舟を載しり
舟より尚ほお寺に舟を載しり
舟より尚ほ舟を載しり
舟より尚ほ舟を載しり
舟より尚ほ舟を載しり
舟より尚ほ舟を載しり
舟より尚ほ舟を載しり
舟より尚ほ舟を載しり

力乏或は少く不支也 役人古くは元不支く爲る者不而
之之付既に也各事 任て族の者も上を採精密を
以て之を採り不支く爲る者列の巖を口に出たり
此方者又之を採り之利一也

天保四己年

已ノ不作也

一村之距離多苦之若く是を教へ合物給ふ合を下予
是を初に製し合を其味以無く加へて依合物不足
之若く是を知りて之

製方仕方

- 一 桐実
- 一 桐子
- 一 大茶標子
- 一 蘭アレゲノホム
- 一 太は実皮と去り荷灰汁を焚冷水 一 空を入る酒と

出の白くつぎ粉を絞る

- 一 不才
- 一 小麦
- 一 米
- 一 大麦を粉に絞る
- 一 子粉を煮、太く穀粉当分の合を煮て汁を搾り汁
はる合に于一又餅に絞る合も煮もす

薬方効能左に記す

- 一 腫れ過太
- 一 吐血
- 一 尿血
- 一 结石
- 一 腎痛
- 一 口中一切
- 一 歯痛
- 一 出血
- 一 疾癰
- 一 淋石
- 一 瘰癧
- 一 足氷腫
- 一 癩毒
- 一 痛風
- 一 諸般之下痢又赤痢

本十五ヶ条を洗つて付主用格列あり

俗人者

案王

薬用ニ用居る事

翼山

立実云々其故も此れの上へ申す事なり

似名の内用多之故を才判人計て申す事なり

一 名を才判人村内毎に申す孕婦方より何月懐妊し申す帳面記出生方より何月出生と申す是事也
此而も此記孕婦出生方より何月又も流産未を生取事も
右此而も此記毎月申す元(四)月上七太村申すは毎
度孕婦若出生人方より何月尚又繁くお城申す
赤子大切之故に是も勿論出生前後大に申す扱ふ事也
此會を申す諭根致す事なり

一 自分方数ふ不付申村に致さるるは此大申す申す申す
毎月村々より申す也才判人若名を之内より連す若石連
家毎に立入才判人婦女より何月何日申す其連吞込安根
教諭と致す事なり

一 名を若才判人分括し孕婦若出生面付申す事細
詳申味の上右面付より自南に生家よりお城書育方申す
又又兄家より致し上申す事も厚く扱ふ事致す根下
申す諭事なり

一 古五人組世話人共也
此 佛振意能く申す諭也難儀を若書育方以書
若申す申す救合根下致方申す申す事なり

一 常業に毎申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す
此申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す
右申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す
是又申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す

午六月

天保五年

光

山吹中村之明年之遠作并厚山救筋法米下小あり共
も而之候約お用事山程米貯一米丈飯料喰延は根心
用は左飢饉亡散之憂も言は共而續家米麦作は揚
るも本年而之喰續は根お米は法去年之共も言力令
發働も出来兼古秋之米之義難儀波出共之方之位
極老之共古之別と一為難儀仍所立八十歳以上之内
難儀之共古之共人并米共計は之方而并出共指
出之又後所之石調之上より共及出共之り共共親族之

内藏前山吹出下米山後一力之
太米拂口之義古志代友下之換以拂地代友下之山吹米
拂之山後下山下

午六月

天保七年

上長村

日向一席在

大玉村

氏友邦

上吉田

志友儀

輝尾

登形米以席在

長尾

海井

表田

流

下田村
 中野 万太郎
 梅原村
 毎夜 保之甫
 留田村
 坊子 云右
 只田村
 毎夜 与右

古く苗年柄非たゞ透作付不附田用中付不付指等辰
 主者之付指紙お後並也

一窮民古所續方之我村に妻を苗中付の方指をえんを改
 付一平等、本安組計道組入々六ヶ村生介初表只此
 村入々安ヶ路之内村之内り後列紙之進付夜又合内代後
 之表以方ふに波無戒生村之村役人七勿海組也、
 名之にも中候救方以角之候て取計也

一稼取之表来作の金計一々中付始来方要の以方村役
 有之熟談波友表も以て中中
 一組之法上納方之表自後し之不表来は振支之候有等
 以て中中、生介候時有表以て方振中中

梅原村
 菅井傳之助
 小田村
 竹友 与右
 大根村
 安毎 坊中
 留田村
 山岡 友右
 坊子 与右
 坊子 与右
 吉田村
 竹友 与右

色り村
 日向 仙右
 相原村
 竹友 傳右
 平右村
 坊子 与右
 留田村
 坊子 与右
 坊子 与右
 坊子 与右
 坊子 与右
 坊子 与右

高井村
寺庄區
高井村
高井村
高井村
高井村

中山村
市川村
中山村
中山村
中山村
中山村

去年当年北北之透作并治上両方之移出精根組合
名上中讀役所中片持等名上中讀所并治等
之ハ一戸方

一窮民在石續之義爲之元衆改在島之ハ一戸方
一屋村田作村茂原村石延村之皇村中山村初巻村品屋村
入之安子之治村并之丙之別紙之出之合山依之役所并治等
筋の爲之取前之同根之ハ一戸方之持物之爲之
之ハ一戸方之持物之爲之ハ一戸方之持物之爲之

申十月

光 小漢組之内

一 三拾石 河原庄之島合 一 拾石 古屋作治等合
一 拾石 依本之島合 一 拾石 大漢岡地合
一 四十石 流道庄和島合 一 七石 小漢岡地村

汁道組之内

一 貳拾七石 汁道村 一 拾五石 紺坐市之島合
一 拾石 紺坐市之島合 一 三拾五石 小戸作村
一 六拾石 南戸作村 一 三拾五石 西新屋村
一 三拾五石 东新屋村 一 三拾五石 松津村
一 四拾石 百目本村 一 三拾五石 茂原村

一八拾石名 田修村 一石九拾石 山本屋村

一五拾石名 小石原村 一拾石五斗上右田村

本宮地之内

一五拾石名 中山村 一三拾石名 石延村

一八拾石名 三石玉村 一拾石名 横川村

一五石名 吉原系村 一拾石名 下植村

ノ

本宮地内 光

一 一拾石八拾石三斗五升

出沢

一 三拾石五斗八升 中山村 喰續支倉袋後言

一 四拾石五斗八升 石延村 右月以

一 五拾石九斗四升 三石玉村 右月以

一 三拾石九斗四升 初表村 右月以

ノ

二本松地内

一 一拾石八拾石七斗六升

出沢

一 一五拾石五斗四升 山本屋村 喰續支倉袋後言

一 四拾石八斗五升 茂原村 右月以

一 一五拾石六斗五升 田修村 右月以

ノ

安積地内

一 一拾石五斗六升

安子崎村 内 右月以 喰續支倉袋後言

一 三核七石口斗口升

以里村之内

別込 堀口 山田

病内 大久保 細山

六在 家

天保八酉年

赤子生育之儀七箇年申申也者之儀大當年柄厚婦
之若所生之儀惡合産後乳不足之儀成自然
出育出未兼之儀申也者之儀難儀之儀申也者定儀
申申也者之儀別紙之儀申申也者極多之儀
精撰之儀申申也者極多之儀申申也者極多之儀
妻細別紙之儀申申也者極多之儀申申也者

二月廿

時田傳右馬

吉田兵右馬

廣津五右衛門

差

一 尚月出生之儀申申也者定儀申申也者出生之儀申申也者

一 二月廿一 月米之儀申申也者申申也者極多之儀申申也者

帳兼渡又申代申申也者

一 二月廿一 月米之儀申申也者申申也者

一 太山申 尚米之儀申申也者申申也者申申也者申申也者

太山申 下米之儀申申也者申申也者申申也者申申也者
申申也者申申也者申申也者申申也者申申也者申申也者
申申也者申申也者申申也者申申也者申申也者申申也者

分ハ下下下下

二月廿二日

平 伍五書

天保八酉年

大目付

時疫流行の甚しき業を用いて生類をのろふべし

- 一 時疫を大粒ある黒豆をうぐいすを合耳葉を水で煮出し出し時々吞てし
- 一 時疫を茗荷の根を搥くとき汁を灰多く飲てし
- 一 時疫後生方に出る
- 一 時疫を牛尿を搥くとき汁を煮ゆり葉硫末を二度飲てし上葉の葉一握り程火をうぐいすあり黄色に成る

- 一 時疫を水に石を入り煮せんとて一夜に飲汗をかきし
- 一 時疫を葉を煮し時々枝をとりし
- 一 時疫を熱湯に漬く葉遠のめくさききてし
- 一 芭蕉の根を搥くとき汁を煮ゆりて飲てし
- 一 時疫後生方に出る

一切の食物の毒はあつて又毒の葉の本の魚を歎あつては食物は用てし死をのろふ

一切の食物の毒はあつてしむきいりしは匠と名め又々ぬき湯にかきし飲てし

但し葉の葉を喰て毒はあつてしむきいりしは匠と名め又々ぬき湯にかきし飲てし

一切の食物の毒はあつてしむきいりしは匠と名め又々ぬき湯にかきし飲てし

苦参をわきわき煮て飲合を吐出せしむる
 一切の食物を当りてくくしむる大麥の粉を香をく
 いりて白湯を度く飲せしむる 大麥茶綱目に出る
 一切の食物を當りてくくしむる血出ても大くくしむる
 衄きを刺きて是合水よりせんしむる 或は
 飲へし血出止む用せしむる 大衛生易簡に出る
 一切の食物の毒を當りてくくしむる大豆を水にせん
 或は用せしむる 魚を當りてくくしむる
 一切の食物の毒を當りてくくしむる 赤小豆の湯を粉を
 て蛤貝を煮り程水を用へしむる 獸の毒を當りてくくし
 いりてくくしむる
 一菌を喰あてしむる 或は用せしむる 生かか汁

を飲てしむる 大英柴志に出る
 大に某法凶年と名は色土と名は毒を當り又凶年
 後必疫病流行のり者此法を便方を撰録せしむ
 依りて 仁丹法書の内より改定録を出る也

享保十八辛丑年十二月
 全月三英
 丹羽正伯

大に享保辛丑年飢饉の後疫病流行は所帯は
 板の 仁丹山科伝村に名は
 大に法園村に當り疫病流行は又八将考法新合の
 毒を當りてくくしむる 或は天の口年山某法は
 故本編に凶年久表りて村に改定録は名も

二月は度村の叔父と又村との領地は百一十石解
右の五十一石解

三月

右の五石は 以後に 信州の石は 終生之河に在る者たす

石解以下

五月

那代中

河津中

那志中

天保八酉年

山又死す村の山修法叔父と叔父の叔父は長方石は百石在る

山又死す村の山

一當年石五石 浩毅山又為中政一と申す 是は鎌倉上

山又死す村の山

此は永年々々 浩毅山又為中政一と申す 是は鎌倉上

一 山又死す村の山 自今方山出役は度々傳教に改

てり

右の五石は 山又死す村の山

十月二日

崎田修右馬

吉田長右馬

丹羽長右馬

天保十亥年

是

去巳年三月に續てて 遠作の山又死す村の山 鎌倉上

村方之妻は多き必止に持交難儀也道より若く者も我に在
所而不知不便也 思召の内自り方也

所由也 任合も力も村に取扱る我夫々 任出に人
中違ひ道に水牙の法民信親苦迫り亦之惜弱也成

惣て農業も怠り根を地を不而痛美に以方情弱
若ハ嚴禁右制農子出精も若く格別之賞に之賞罰

在り之性も山飲多布村に引立根之制度
所取意も妻細口目多方子也道に以深本并根植

立柿桑葉ノ本数も村方之妻は多根立根之根細
之り道妻の中合も之り以深本之妻も勿論生卯也

美世之進 上之所益一之米も中益を所之生村
之量も米米也飯分中給り引立根之制度

所取意も方之右の内深本ハ生國之妻は多道上来り
任出にりりも方之右の右也

以方様も我も全 上之所益一之米も中益を所之生村
然上之妻世之進村に任程も昔取方之先道上来り

任出にりりも方之右の右也 上之所益一之米も中益を所之生村
以取上之妻世之進村に任程も昔取方之先道上来り

以根之制度 所取意も方之右の内深本ハ生國之妻は多道上来り
上之所益一之米も中益を所之生村

根之制度 所取意も方之右の内深本ハ生國之妻は多道上来り
上之所益一之米も中益を所之生村

上之 任出にりりも方之右の右也 上之所益一之米も中益を所之生村
村方益も一之米も中益を所之生村

也利之改義勿論も之り以深本穀不懸四年之中之り

以後其... 役令... 役令... 役令... 役令... 役令...
後其... 役令... 役令... 役令... 役令... 役令...
後其... 役令... 役令... 役令... 役令... 役令...
後其... 役令... 役令... 役令... 役令... 役令...
後其... 役令... 役令... 役令... 役令... 役令...
後其... 役令... 役令... 役令... 役令... 役令...
後其... 役令... 役令... 役令... 役令... 役令...
後其... 役令... 役令... 役令... 役令... 役令...

亥六月

代官中一

天保十年

去年正月... 役令... 役令... 役令... 役令... 役令...

山川之... 役令... 役令... 役令... 役令... 役令...
山川之... 役令... 役令... 役令... 役令... 役令...
山川之... 役令... 役令... 役令... 役令... 役令...
山川之... 役令... 役令... 役令... 役令... 役令...
山川之... 役令... 役令... 役令... 役令... 役令...
山川之... 役令... 役令... 役令... 役令... 役令...
山川之... 役令... 役令... 役令... 役令... 役令...
山川之... 役令... 役令... 役令... 役令... 役令...

一 安積筋

安達郡一箇
信更郡一箇
山新形

長屋筋
氏田伊右
丹羽田筋
三浦又左
山田伊右

右... 役令... 役令... 役令... 役令... 役令...

七月十九日

三物勘書
畠田傳吉

天保十亥年

去巳年より申引續き之透作より領内村之雜帳を申出
追々申立し所修治し 修出雜帳簿、申出の概
所振起之に浦木並松柱立柿栗乾之樹木並に村方
寄植之概と申度方、修出の概は連立の稻凍
代り申出と申上納申免と申出たり
太之連より生息村より中連より力より下

亥八月

新代

天保十子年

去巳年より申透化抄續人並減少之程を免申出たり

午年分申年連之午年又、酉年分亥年連勘合の午年
子年より欠落立物より若くは新申免と申出たり又、申子
年分寅年連之午年より新申免と申出たり之何れも
万石より申出の自方より申出たり又、申下より申出
落人並新勘合より申出たり又、申下より申出たり
新勘合より申出たり又、申下より申出たり

三月廿日

畠田傳吉
氏田伊左

課役

文政九戌年

出納分中蚕種紙引配の若大卜澁札申後並右澁札持
 上未の若汁種引配の若大卜澁札申後並右澁札持
 并裏名之種由調の他所在蚕師方申札申取の
 若大卜澁札申後並右澁札持申取の
 申取の若大卜澁札申後並右澁札持申取の
 申取の若大卜澁札申後並右澁札持申取の
 申取の若大卜澁札申後並右澁札持申取の
 申取の若大卜澁札申後並右澁札持申取の
 申取の若大卜澁札申後並右澁札持申取の
 申取の若大卜澁札申後並右澁札持申取の

(Faint handwritten text, likely bleed-through or ghosting from the reverse side of the page.)

高も表名を種も中札おぼへ不中札右に振るり中連
引種改め若も若葉の邊に生え種改め表名に中連
所今更に抄出根の中連一力に下

五月甲

伊東九之傳

文政十亥年

山吹の中表番改増長自然に耕作に後にお成り中表
番の表名を中札おぼへ不中札右に振るり中連
引種改め若も若葉の邊に生え種改め表名に中連
所今更に抄出根の中連一力に下

去秋中表番改増長自然に耕作に後にお成り中表
番の表名を中札おぼへ不中札右に振るり中連
引種改め若も若葉の邊に生え種改め表名に中連
所今更に抄出根の中連一力に下

六月甲

丹羽春耳

之浦久右

大島大右

相木権右

文政十亥年

山吹の中表番改増長自然に耕作に後にお成り中表
番の表名を中札おぼへ不中札右に振るり中連
引種改め若も若葉の邊に生え種改め表名に中連
所今更に抄出根の中連一力に下

右之来大河振之元斗了方之下

是

一本不種何千枚

内何枚 拾了卷

物之何枚

可收法何程

一 半不種何千枚

内何枚 拾了卷

物之何枚

可收法何程

可收法上何何程

右之来大河振之元斗了方之下

国六月十号

丹羽卷身

之浦又在焉

大急古在焉

文政十亥年

沼田商賣之義七月九月中也折免人攻才沼田札

中夜事は中途之札を折免後之札を商賣法は若も

中之中之九月後も抄之沼田名舟賣書は若も若も

地之折免人攻才不束之之折免之来右折之義之振宿村

中一連之方之下

七月十号

之浦又在焉

竹中友在焉

文政十一年

春師大出定之役詔是近河在方町令臣下其助以當年之役
法役淺河根河在役人々以令役中上納仲々方上利之
所一乃前年方追之種銭以出書之重之性而凡令燒失
又之遠以春之於種木之取本之附之口葉内之重之多是
也此之口令出此味之重之上上納之方之方之方之方

五月十二日

丹羽登耳

三浦又左

大島右左

羽本権左

文政十一年

以依多中一春莫大之漲之農業多後之取本以方春種

之重しお取之方之春お制は春師無種銭大去申年
以法中分以當年方種銭之義之由免之取之方之種
多功方之取法表表春不苦之取之方之種之不
莫大之春波一農業之後之取本以方之取本以方
有之重之春波方中村役人元之精密之取波而升格
波六月中一書書重七月之重之重之重之種
之重之重之重之重之重之重之重之重之重之重之重
勿論材役人方連中分方之重之重之重之重之重之重
之重之重之重之重之重之重之重之重之重之重之重
一種師大之取法重之重之重之重之重之重之重之重
之重之重之重之重之重之重之重之重之重之重之重

一去年之種引取之役詔由納重之重之重之重之重之重

川種之方を以て採掘指免の旨は長に承りて方々の他種
作大にも支へりて是れ乃然と承り種師大村に採掘種
紙負取之儀を告知し採掘に付万は儀も承りて方々の
太之進より承り支取不為村に採掘に付万は儀も承りて方々の

二月十日

丹村老貞

三浦又右

大島右左衛門

羽本権右衛門

天保二卯年

貨収札之儀商賣初に於て新規札を収め及令
之より採掘に付是れ共商賣止む札令之共儀者
改定分紙おは儀に及令不採おは儀と承り儀者中支儀者

札を収め及令之より採掘に付是れ共儀者
太之進所在にも是れ共儀者

三月

山崎の方

天保三辰年

出用出入在位之儀に於て是れ共儀者及令
先年の中進可方之儀追々お流又之出定之
已之儀に及令お流及令及進悉くお流及令
合方言にお流及令及進悉くお流及令
有之儀にお流及令及進悉くお流及令
取捨に於ては之れ不採重中出採材役人

此後天等閑におくはれは連々お流は家々お尋ねて来任之
 とお祈りの事ありた芳村を勿論仲ヶ万極孫お婆お
 言用者中身の根村役人たかこの中身を包抱込に備へ
 ともお流おんは所計の根中連々丈夫に合方を不
 法任込に不承成共におきりて生息不承至中出は根村
 役人たこの中身を

一、用お人お對お備は後多札刺き中への取集へ生年
 人数多お家少追遠村方札刺身を出来は我方の出
 と我たお村を同じ名に僕を以村の金子不承成に
 はに別け出た村を同じ根子に及てお對別け先村
 三分の合方中又て波重年と似て三分の金子文成は
 不承成は生息の事お備へは生息難お出来たこと一先

眼を不承成後村方にお對言合を不承成者も方共、
 おま不承成に包ひお出人が抱込に我人承て依りては
 此天村札刺身は有はりてお村別けの方を抱込に及て
 自分村方を物別へ合方請求安く自分村方指
 重介村別けの方お承て我お出たお出来ては村
 方重任込お出来は根生角下の中身を同様に申
 在る方共

一、用お人たこの中身を以て波重年と耕作お難儀は根中
 立言は根にお出来はりて在る方にお生息農業種不承
 成におありてお出たお大者にお生息角にお出
 次方にお出たお出たお出たお出たお出たお出た
 順お順お順お出たお出たお出たお出たお出た

一村之内其農業亦成無日廢而又有賣未改所共月
亦之成之者有之極之共之以此之以上者公為所極村
役人ト云々中村之豪ノ多中者公おるに中村役人
大子六ヶ敷おるに所在日廢不改所共之亦之共之
心之遠之之り公之亦之共之併令片舟亦之共之
共之亦之共之亦之不依捕之亦之共之以上者公之極之極之
り中村

天保十一年

郡代

代發中

天保八年

出用出人之内重年おるに共之抱口方中互別在り役所
多れ之別舟其之忠中多之別舟村方にお城合力
請求未法外之共之兼及迷惑之共之亦之亦之亦之
以上者重年重之共之役所方之別舟之共之
お止ある出用出人の共之救絶切之改別姓之共之組合之村之
改小別太小別快別在り役所之共之出用出用之共之重年重之
共之別舟村方にお城村役人にお對之共之村下別舟
重年重年之共之捕之亦之亦之改而令内法其之共之
乞近之進之亦之亦之抱口之共之重年重年改之共之
藏人出人亦之亦之亦之亦之亦之亦之亦之亦之亦之
指支之亦之亦之亦之亦之亦之亦之亦之亦之亦之

一 糶津組に於て所用出人諸職並四人を抽出先在連に取
出され又之に連法組一日に修法中村より生心は根
下

十二月十日

丹羽屋右馬

天保九戌年

光

毎年在出人合子に上納之義村方掃子に修法中實延
年中一日に内令納より中三月申上納之改善は修
延引之在來は組も方より修法中遠之に根別村中
方中解(日刻)に連上納一段方安永之度中在連は年
中流及延引に組も方より修法中在連は年

令四年貢在村役人初等用一、おのれ管之義、おのれ
延引之村方より、根別方被了り、必竟凶年、中
格別 清仁惠も在來下は義村役人右列を
下取計り、おのれ在連も方より修法中在連は年
此方急度下り、おのれ在連も方より修法中在連は年
根別村中、方中解(日刻)に連上納若くは修法中
未も在來は安永之度中在連は年、二月中に修
法中在連は根一、中村方代友中、一、中村在連は年
修法中在連は向學用、村方在連は上嚴重に修法中
修法中在連は向遠之、根急度下り、中村在連は年
太く修法中在連は意、中村在連は年

戊七月

那代中
那代中

驛病

文政九戌年

山領中旅籠屋大正來泊る旅人盜難之義万方は
旅籠屋屋後世波の上を容扱而色之云々今一合入管位
早竟等用之者心故旅盜難亦有之義之者聞不承之者
以上東太辨之義控有之者若屋之者城度之者之者
旅籠屋大正之生与者心故旅籠屋之者之者且及能
之義旅人一若若波矢は与者心故旅籠屋又一之者
下

八月十日

丹羽卷年
竹中散年

文政十亥年

宗人より利名を村役人同座場に書附け義も混雜存
所名より生立り申す下りて方同座場に書同座に
レ利名を中仕の根中連に書同座物一人より一向之
より多き甚指交り方是根宗人より之を掛く不
指出根仕度方是也也根も存り方利名を
出少書下り下

亥三月

竹中散年

文政十子年

仕遠解道格に入方と来り義先連中及出候御
申付申す候夫去秋中一時に普請之場不事及
来就波無可申す或は申す候は甚農障
申す名を在分より上げ先取申す
名を夫より申付下りて申す申す
申す申す申す申す申す申す

子二月十日

丹羽卷年
之浦又在

文政十子年

郡代并自分夫為田用先解指出入中通行之義
坊無村方を名定前申す申す申す申す申す
坊不事世人先拂申す村方より夫と来先解指

山祭之舟自今初の自分方も口お役方も重キ事
 此は組合の事先拂出た名は讀重の概村役人ト下
 連々ト云出

一山祭之舟自今初の自分方も口お役方も重キ事
 此は組合の事先拂出た名は讀重の概村役人ト下
 連々ト云出

三月七日

三浦又左馬
竹中友右馬

文政十三年

門意

往送筋道橋下入之義と来丁物持村掃除利人
 寺人ツ村門の所共お立直付丁物為元也
 利てお返し
 右之舟利人ト人足亦用捨下之計也
 山別紙之由 往舟之舟平日掃除所居宅也
 荒年中若下村共お人も一方之舟之舟若ト丁物世話
 中舟一ヶ月武度ツもお直一之義也此意の中
 此舟名之船以所計も所為一之舟也
 一右之舟隣村ト之舟合村ト之舟人ト之舟而舟者
 此舟極ト持上之概ト舟付ト之舟之概ト舟者

乞又長舟、万め氏、生、

四月十九日

河原左保右

四月廿申候

文政十五年

光

以影申之、道中、性、来、之、人、言、不、お、麻、心、言、致、由、立、
当人又、来、之、若、是、痛、ホ、云、云、按、跡、時、人、言、お、麻、心、後、
引、通、一、お、麻、心、上、之、家、初、お、麻、心、跡、先、觸、拵、出、余、之、心、
無、生、義、引、通、一、之、云、云、跡、跡、飛、麻、心、中、之、者、之、不、宜、方、時、及、
道、中、車、跡、跡、方、口、抄、迹、心、来、之、来、心、跡、之、致、云、按、迹、中、方、
跡、跡、人、言、お、麻、心、引、通、一、若、之、お、用、心、義、引、通、自、分、先、觸、之、
拵、出、若、後、後、後、人、心、言、之、お、麻、心、云、云、

他、指、急、之、性、来、之、是、近、之、色、之、不、及、先、觸、之、飛、麻、
心、引、通、一、云、云、

右、之、通、之、性、生、之、云、云、お、麻、心、之、而、之、向、義、之、云、云、
目、下、申、

右、之、通、中、車、跡、跡、辰、口、跡、跡、方、中、才、跡、跡、之、性、生、之、云、云、
下、之、申、下、

五、七、月、
船、代、申、

所、申、申、申、
船、車、跡、申、

天保四年

往送節道指多入之義先年此道有之公已未引續多入
形西以故天ノ水ノミヨク其來此等尚所ノ姿ノ斗も云ノ
兼下ノ其ノ羅斗依ハ此係子ノ其ノ中ノ道其ノ兼ノ
此ノ方ノ度ノ 此出ノ此右及節并ノ自ノ方ノ此後而
兼指在ノ此中ノ方ノ此等ノ方ノ

一往送節道指多入分其ノ年而三度ノ定式ノ其出此等
此等ノ其ノ中ノ山口東山口ノ此等ノ

但右分其此等ノ其ノ中ノ方ノ物亦其完ノ上其代中并
自ノ其ノ内ノ中ノ方ノ上ノ及指國此等ノ其ノ天此列ノ人
又下ノ其此等ノ其ノ此ノ其ノ地元及人ノ此等ノ其ノ方ノ
ノ其ノ此等ノ其ノ道節其ノ中山東山此等ノ其ノ役人其ノ下
其ノ其ノ其ノ方ノ

一太役中ノ年為定ノ其此ノ年ノ内村切ノ其此等ノ其ノ方ノ
其此等ノ其ノ方ノ其此等ノ其ノ方ノ

一形代中ノ其自分太送節分其此等ノ其ノ方ノ其此等ノ其ノ方ノ
其此等ノ其ノ方ノ其此等ノ其ノ方ノ

一其此等ノ其ノ方ノ其此等ノ其ノ方ノ其此等ノ其ノ方ノ
其此等ノ其ノ方ノ其此等ノ其ノ方ノ其此等ノ其ノ方ノ
其此等ノ其ノ方ノ其此等ノ其ノ方ノ其此等ノ其ノ方ノ
其此等ノ其ノ方ノ其此等ノ其ノ方ノ其此等ノ其ノ方ノ

三月十日

之浦又其ノ
廣康其ノ其ノ

天保四巳年

其此等ノ其ノ方ノ其此等ノ其ノ方ノ其此等ノ其ノ方ノ

伝支那今自篇人言... 此方振之也... 公急而商... 今造物者...

- 八丁目... 一 宗... 一 本... 一 本... 本...

正八月 郡代中 所...

形事記中

為氏山連主之類之始生之受取下村之山連主方以下
八月廿六
之浦又在
廣康島之浦

天保五年

神人百侯儀之刻標之內一割也余除儀波右方除方他
信之我神之文之中割取牙何也之存家之通安局且
德度方其介通引之有也之存家人百之方也一月除儀
波之類之山連主之方之山連主何人百之類也其代書中
之山連主之文取下村之山連主之類也其山連主之方以下
九月廿六
之物割也
之浦又在

天保九成年

以大名板山通引山苗白人百五拾人五拾足之長出の如文化
元子年三万石以上之山大名板方ハ物々別種之類人百
お用以三万石以下之定種人百之類也山苗分減五拾五足
之長出の如後文之類人百お用以三万石以上之類也山苗分
以上之山大名板方ハ通引の如後不隔日山苗立之五拾人
五拾足或ハ五拾五人ハ五足之類也長出の如後文之類也山苗分
山苗の日板通引の如後山代發中村ハ長出の如後文之類也山苗分
年山苗の如後文之類也山苗分ハ長出の如後文之類也山苗分
山苗の如後文之類也山苗分ハ長出の如後文之類也山苗分
山苗の日板通引の如後山代發中村ハ長出の如後文之類也山苗分

和風前又之通中村公吉更破方中佛也通新前後不淨
日中持立之分七矢法以南日振之等也其方之朱拾
万石之上山天石積方也通新前後不信日中持立之人言
別時亦教以多人之終立當分也試以何物而何處
中持立之方也長石等也其村後人尤驚也其後持立之
中持立之下

六月廿六日

武田伊左
長屋茂左

天治九年

寺社

文政九戌年

和田村岩角寺昆沙門堂及大破也并度建替日振
修後也

慈明院様法遊 市信仰元禄年中山造管下

山飲分中寺加山免法成以律也依教以度也山飲分中
對勤化山免法成以律也依教以度也山飲分中
方之下

六月廿日

長屋茂左

文政十一年

冊湖寺殿堂再建形之上山飯分お對勅化歲山免追之辰
分中一被巡行以万不依物之多少志決才寺加振之福
連旨材役人た下中舟一力之由光為院技お對勅化
山免冊湖寺カお飯分持来お出之り以下

二月晦日

松井 志本 共

文政十一年

是

本幡山辨天社并之重塔屋根生外及大破以舟以度修
彼有之治隆寺カ山飯分中勅化山免此年以万依仰之
輩不依多少奔進一被巡材之為之天寺色合石集並
未丑二月中治隆寺役僧お出之次舟お飯分根少又死下

丈之由連並一力之以下

子十月

長屋茂在

文政十二年

是

上米寺院風義お流出家不似合不如法之義友有之且檀
家お對一施物多之多少之論一又之宗旨送了宗判没亦
之義不助之義中掛以教之義有之舟之舟之舟之舟之舟
以之舟不坊之義之勿論檀家お對一不信之義有之舟之
歳重之山沙法一舟之舟之舟之舟之舟之舟之舟之舟之舟
中之舟根中舟之舟法寺院カ山飯送之舟之根之舟之舟
下舟之舟之舟

寅壬三月

郡代中

分紙之每四連者之正方出承知之来古院夫不始法之義ハ勿
論且象カ對一不爲物之中掛ホ力之ハリ不抄並子連下
中出方意度取ハ故生辰不儀根下一連並旨高村役人カ
下らり中車下入下

壬三月廿九日

云浦又在焉
廣徳多六之傳

文政十三寅年

光

正身旅傍在古口板坂东打杯一在留也團之敷出故分古院之
内一在板坂改止者又町在、逗苗之上宗旨之儀、教化亦改他

宗止も物依改一ハ根在勅ハ在辰有之哉、取方ハ宗止ハ之義ハ
從一ハ儀ハ、位出も力之ハ、乃寺院一ハ、之義度入念
在改所、在役人カ、入念、是穿數令、疑友、若も、有之ハ、
下辨出、義ハ、勿論、右義ハ、若所、在古、在城、止者、在形、ハ、
和、在在、代、中、有、義ハ、之、按、子、細、力、ハ、ハ、役、元、中、出、一、
括、團、ハ、古、院、之、義、ハ、宗、法、之、ハ、止、者、在、改、止、者、ハ、
ハ、在、天、者、又、在、礼、在、義、ハ、若、止、者、在、改、止、者、ハ、

寅六月

郡代中

所車中

郡代中

天保十三年

天保六年

大目付

下総國投務

意富日皇大神宮

大官司

富昇

陸奥

出羽

右内管生外諸末社及大破社并修復補助成去己年より
来己未年迄之今年之官位五月八日迄之官位出羽若府
内武家方寺社所在大勅化山免成下之波巡行に之
父上徳去己年、病死并以度太斗ヶ国若府内武家方寺
社所在大勅化山免寺社寺以連判之勅化山村社

役人六箇己七月分来己申六月迄之今年之官位料取寺社
在所在之波巡行に官位仰之軍をわ之多少より以之波
寄進与滞料を以代友和取之領之地取之十俵

己五月

右之色下之取解

別紙控 以候由違有之候に度社役人当地に在候
内波巡行に答に官位細取解而之色位仰之若持方
志決り寄進之波長由支配下寄村にトッ下連之方
且中澄持城、官位官位合由候中、本官西廻郡山三
廻地五廻八丁目廻之取之取之重一、重一、重一

三月二十日
一、切勘書
味田伊左衛門

方、中又勅化之義、御子次第、
一統難儀、
武之百又位進、
名、
或止、
内、
の天、
在、
合、

天保六年

武列一ノ宮中野八幡別當大宮寺月神之中野豊前社
氏及大破、舟山免、勅化、中巡、

有、
小村、
之軒、
之舟、
中、
一、
下、
足、

十月廿七日

中 角三

天保十年

村、名、

此札被入帳不審有之在札以良一向不審分持不山方
之未讀合而力之内掃合而力之内之兵制之振一之長年之若
方之内兵制之若方之内之漢合中地組之日之若也
是之月之若未遠正制之振一之長年之若

三月十八日

和田右文

三物勘吉

南波隆之重

奥原春之清

中川勘吉

雜令

寛政二戌年

一 涉城下之土井並之若古涉郭内出火之苗金前一若港
一 在合以下人百連在若屬方之我郡代中一陸持岡之
一 所方出火之也出郭内之火入之程之也右日振之也若也
一 此日所之也之苗之若制之我用於世之也
一 在在之若也之涉城不出火之辰及角之也右日振之也若也
一 人百連金前之也若也
一 右之也之若也之若也之也若也

戌二月

郡代中

文政七申年

中達

日當

以用人

形代

此象中一之妻女子無之來之經營之而已愈之居者子窮
 居之亦之月以米於市中芝居無行有之其穩便之
 此法之相我由免之生以仍歸之有之人又之親親懇意
 之而之日送致之相城之根下之致以自然前又之
 此報之之有之一新加之相前業跡之群集之物不
 之有月押請居出之安之之忍之有之尼物之致以然
 上之不法之共有之在大由來丈之致劫年破云才之不
 似合劫年之之我者之在大生恨之

涉覽只百以万生心行下之法以之也制彼也方之
 万而之我彼花員之之根之致以我之勿論之之乃以生亦
 美之乎實美之致我知之根之
 涉我之之以官心行遠之之根之致之也百仕之若夫生物
 不之不及中於所內感播之方我未方之何之得之
 非人持我之之我之吾亦遠我制以我之之者之之乃官
 之之得之百仕之若也也京度下之中之生
 太之也之 行出上之是也遠以亦判向之芝居有之所
 内世其致之我亦若之乃人也之物亦之乃官供立亦之
 之之其亦之我之若根致之之根之世其之致之乃官
 一傳傳下之我之是居無之者之我之是也之也之也之
 我亦亦亦之之

太之極、
出中、
常、
向、
一、

是

以、
之、
也、
使、
也、

- 一 五百石以上之、
一 大、
一 目、
一 石、
以、

似、
皆、
一、

- 一 借、
一 無、
一 表、
一 由、
一 并、

一見物お城居内所出入之共分書物おあり之り大袋お取上
法りあり

右に述べては生念口前中へ申す事は追向案より申す事下

申す月

郡代中

文政九成年

山文取下之共大親親能へ解由自分方へ不取内之書物共
あり之共おあり之り候へば解由お取上之り自分方内書物
出に概あつたり申す事不特に是も不取見之能遠く之り
之生能へ解由之概お取上之り候へば長天の六年申す事
候へば其の由遠く申す事不取見之能遠く之り候へば其の由遠く申す事

山文取下之概お取上之り候へば其の由遠く申す事

三月

丹羽巻年

吉田巻年

文政九成年

浪人共出候内、逗留所被取立候方共、此邊より有之候に其
逗留所被取立候方共、此邊より有之候に其
借迄被取立候方共、此邊より有之候に其
為致逗留候方共、此邊より有之候に其
又、此邊より有之候に其

十月廿九日

郡代

文政九成年

山文取中若村、此邊より有之候に其
山文取中若村、此邊より有之候に其

此大火風烈亦一初七夜解防園之上也

一法了本園中障撞堂之右之五撞也

○○○○○○

太之進之障也之申之而之東之進向案一之申也

子三月

文政十一年

信遠筋滋川村之内小津村下坊之是進去橋之辰以交款上
新規不橋掛也中什么然以小村之我普法不仍而得合助
勢人是影坐也而右不橋普法之我不橋之者之也
就雖未集滋川村之也下之文有之依之村之助勢人是
不多例共指出之也多是之不成成以官人是之人之月九十五
以之例之也實淺的申之

滋川地助勢人之言

一人是百九拾人

地小沢村在之割姓一法

太之進下等之百割元名之村之割姓一法計元名月十二
拾元名小沢村名之太實淺村之也申之

八月廿九日

平 友三

滋川地割元名之申

村之也申

太割姓

- 一拾八人 一拾八人 一拾八人 一拾八人
- 一拾八人 一拾八人 一拾八人 一拾八人
- 一拾八人 一拾八人 一拾八人 一拾八人
- 一拾八人 一拾八人 一拾八人 一拾八人

- 一 三拾八人 甚多
- 一 拾貳人 左原方
- 一 拾六人 与三席

文政十子年

仙若、武侍、神、波、一、而、之、隱、一、中、人、家、也、武、織、合、漢、去、
 波、意、以、若、方、之、中、分、之、似、并、合、子、并、取、物、也、若、方、之、若、方、之、若、
 方、不、宜、子、中、以、是、朱、古、神、之、若、武、織、合、一、苗、並、姓、名、子、
 此、一、事、速、中、出、所、一、波、以、武、中、分、似、何、之、以、少、分、之、
 拾、者、之、若、方、之、若、方、之、若、方、之、若、方、之、若、方、之、若、方、之、
 若、村、役、人、古、古、子、中、事、速、中、出、所、一、波、以、武、中、分、似、何、之、
 以、少、分、之、

文政十子年

十月廿九日

丹羽卷耳
 之浦又古

免

- 一 七千九百九拾貳人 苗代田村岩色堰普治也人是言
- 内 千五百三拾五人 水下一千九村出人是引
- 沙 六千八百五拾七人

- 一 千人 本宮組
- 一 五千八百五拾七人 九代发伝

一 七千九百九拾貳人 苗代田村用水堰普治也人是言

- 内 三百六拾五人 村人足
- 武子 百六人 村方之人之若出令分引

但岩城坂普治入自为是米令三拾五石出令分引
 合是之舟浅六石三百石又人足之舟人舟賃浅百

五文：續（如世）

少子七五拾五人

別姓言

内五子九拾三人

岩垣技人是

六子六百六拾三人

古子普法人是

廿律

一式子人

本宮組

一九子七五拾五人

九代安和

太古前桑五雨在。大普法寺水下村。自力。難叶。市
別姓人是。相借。普法。改。及。名。仕。板。帳。之。形。出。出。代。官。
勝。國。友。在。之。足。分。之。上。中。立。之。行。自。多。天。彼。地。也。其。城。是。足。
分。以。以。岩。色。堰。之。其。苗。反。中。出。水。之。初。改。大。破。不。取。敢。水。
下。村。之。子。入。改。之。足。農。子。之。家。中。之。初。百。度。近。押。切。後。堰。

日。概。多。入。改。之。重。之。之。危。之。也。足。以。之。行。是。近。之。堰。表。引。引。長。廿。式。
拾。式。万。之。廿。七。下。及。四。万。踏。式。万。之。名。梓。堰。之。改。仕。板。
之。人。是。之。多。分。也。掛。以。以。大。成。就。以。年。收。也。其。保。十。一。中。也。
足。且。矢。津。川。筋。用。水。普。法。場。之。其。是。又。是。足。分。以。以。相。取。
石。村。之。苗。代。田。村。之。引。取。用。水。樋。筋。之。下。之。矢。津。川。横。
也。流。之。切。而。分。右。川。筋。之。足。碎。之。組。上。之。無。樋。水。筋。之。分。之。并。
六。万。金。樋。長。廿。拾。式。万。之。物。之。以。分。成。就。改。及。時。破。損。
有。之。村。方。難。法。及。之。上。苗。秋。中。大。破。改。一。向。水。系。不。下。以。
以。天。田。方。地。毛。實。入。後。之。其。分。高。年。八。拾。式。也。其。在。海。
以。以。天。事。在。之。連。也。難。拾。五。萬。分。矢。津。川。東。之。岸。長。廿。
拾。式。万。平。均。式。万。之。其。分。半。堀。拔。矢。津。川。之。流。也。近。之。是。近。
也。其。多。之。切。而。一。各。古。子。之。築。立。用。水。存。分。引。取。度。也。

仕振言人足言者莫大掛掛は天光之取お見は方お赤天
之何之上判人足代は後之義安海は自然大人是は舟十代後
而判陸中舟を絶之判陸之義を返之判舟中より
下下解は長は子とてあり

一 兼系由而之人は之判陸中連はは岩也堰普法之方
兼矢津川は御岩堀抜之是之は度捨出下はは天岩堀
抜之義を疾速に成就致り後以官矢津川村方より
岩堀抜成物後捨出は根より返りてあり

一 普法方之義由而天の容易之物而之之連も不判其
之原之を丈丈之出来中より後言る水卜村廻役人兼長
百姓有之文原の中より方一は長供名之天内之中より有
之む村より上は判向之方捨去之之有之判海を為而天之人

之舟百五又之は苗下は長中坐より有之は方名は丈配下捨
賃納金もは否の礼書舟より上より今而も捨出之有は
太之通りも有之丈配下村より下より中より下

十月二日

丹羽卷年

三浦又右

文政十五年

水戸山飯常列茨城川和由村伴及之中若家法司命在
法園賣以度与取出は付丈配而方中澄水度は先より
は度方園より取捨去は方好

山飯中は取捨去は射之上焼中札水度高賣は度は根
根崎所城中屋生之傳より連並り方太之根は心取
金より若く捨去は潤高賣致し根より丈配下高村より

建永元年

五月廿九日

熊谷信之備
竹中友方

文政十二年

清目見法 仰所河在之若夫是年病卒以之若多々
有之はは年竟 清目見法は我を厭以自然之既
勝之若夫は我も若夫はは清目見法は當人
敬之上 清目見法 仰所若夫は我を厭以自然之既
年始 清目見法は上若夫は我を厭以自然之既
以是の清目見法は我を厭以自然之既
以是の清目見法は我を厭以自然之既
以是の清目見法は我を厭以自然之既

五月廿九日

竹中友方
廣能為六之備

文政十三年

久三父方

丹羽信中
丹羽伊豆

太之進次友方

太之進次友方 持合は若夫は我を厭以自然之既
三月廿九日

和田要人
竹中友方

文政十三寅年

上米粟金銀柄其有之振其少既法料而也其是
穿數之較其少其也巨捕以自依之以後你嚴重
穿數之較其少其也巨捕以自依之以後你嚴重
去其少其少入巨捕其少其也巨捕以自依之以後
太狹不將悉其少其也巨捕以自依之以後你嚴重
山中其少其少其也巨捕以自依之以後你嚴重
汝其少其少其也巨捕以自依之以後你嚴重
也一其少其少其也巨捕以自依之以後你嚴重
以是也其少其少其也巨捕以自依之以後你嚴重
夜心其少其少其也巨捕以自依之以後你嚴重

壬三月二十

三浦文右

文政十三寅年

門十所方

丹羽丹波

太其少其少其也巨捕以自依之以後你嚴重
其少其少其也巨捕以自依之以後你嚴重

壬三月十

熊谷修之信
竹中友右

文政十三寅年

光

出飯内位高賣之其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也

本物上布部合之... 下並之... 者賣下... 改... 以... 前... 有... 其...
之... 入... 改... 之... 義... 友... 之... 色... 中... 升...

池井村 同屋

三本柳

福原村 同屋

松津村 同屋

八丁目村 同屋

言余村 同屋

汁道山本屋

田津百目本

下川崎村

内本橋村

水戸津村

本去名

山所

柳原寺之傳

那山名

兼地志之傳

永戸

右之... 入... 改... 同... 屋... 中... 升... 一... 万... 右... 之... 色... 荷... 口... 淺... 取... 互... 河... 段... 淺

相子屋

一 岩城屋

仙居屋

一 上野田屋

ノ

寛九月

右... 入... 改... 同... 屋... 中... 升... 一... 万... 右... 之... 色... 荷... 口... 淺... 取... 互... 河... 段... 淺

涉津下位河原年流中届付度方止以并去未年已
前之色位高賣流其大掃日次并使不昔以辰
子多夫為村と中連下有之由尤入位改切而之義
別代之色中連下方是又之由多由下有之由下
九月十九日
熊谷傳之傳
唐康多之傳

文政十三寅年

去りし年号天保と元政の
傳出有し未年
と流生之支取下と共と下
下

十二月十九日

丹羽伊豆

天保元寅年

殿様去りし年号
城は新任

侍従恐悦と云ふ付辰岩村と中連下力と下

十二月十九日

三浦又右
竹中友吉

天保二卯年

光

火子有之流と朱火滴之外無用之族為尼物と云ふ
有之振お笑ふ火子物と云ふ物共之外無用之業不
池茶と云ふ中連下
伝出有し由傳自も有之由
心伝透と云ふ中連下
若火子物と云ふ物
右之色先年方度と中連下
も多し防火の妨と云ふ物

我輩無用... 天保二年

大目付中

太... 中胡乱... 下

卯八月

形代中

町奉行中

形代中

天保二年

玄常

殿様... 百姓... 秋田... 秋田... 秋田...

秋田... 秋田... 秋田...

秋田... 秋田... 秋田...

八月十九日

秋田要人 竹中友成

天保二年

光

火之元入念此為第一候之災區也
此等下等之村別候之邊所之市中幸之は市場之為
村之勿備生外た出火之候事之依り以米火元之者
吐出波此味此為一丁方之米火元尚更心付之候下
中幸之り

太之邊此候生之十代爰中一丁中幸之り

廿九月

形代中

形代中

天保二年

此又配下為村之田方初極粗穀納政之形坐候是也
厚志奇特之り付百姓大友之候は此所納可共取
知り候之候也追之り及は法先達中入重之候米廿五
九階在田然計屋此所納と取之り方以配出之候在是
之り候之り候

此所納當日自之り一丁政出候也此所自之り方も此所
之り候

一 右秋納粗計送地濱川此所納用米花上港入之り

一 右是れ也此所納之り候斗之り

一 根此所納先之り候斗之り
一 此所納先之り候斗之り
一 此所納先之り候斗之り

右の通り申上り申す

十月二日

和田要人
三浦又左

右の通り申上り申す

一 村の通り申上り申す

一 田代渡り申す

一 田代渡り申す

一 田代渡り申す

一 田代渡り申す

一 田代渡り申す

一 田代渡り申す

一 田代渡り申す

一 田代渡り申す

一 田代渡り申す

一 田代渡り申す

一 田代渡り申す

十月三日

武 伊左

名

天保二年

光

出火の良槽

諸君は七喚滝

来左の通り

一 山郭門出火之旨

格方之旨は喚遣板木打更之旨

一 山郭門出火之旨

法省は喚遣斗打更之旨

右之旨は法省之旨に依りて事之進向を以て下

卯十月

形代中

天保三辰年

今津飯告郷村並歳減之旨是進所取上若道留波等
一 山小屋之若大病人小屋止若法中抑之旨有之候
大若歳減之旨也

土俵門殿方免許之儀札も不持致居り申す山小屋支配
之旨可取上止若法中抑之旨有之候
一 山小屋之若大病人小屋止若法中抑之旨有之候
大若歳減之旨也

辰三月

天保三辰年

徒士目付中々名之旨は指出法方并先下之旨是進區
之旨之旨は格方之旨に依りて事之進向を以て下
一 山小屋之若大病人小屋止若法中抑之旨有之候
大若歳減之旨也

天保三辰年

法藏人古制也地料之義也前之所定法也力之定也其
文化亦大工度林其大也地料也信也其之連也貨物也
文也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
右也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
之也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也

地料也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也

地料也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也

右之内也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也

右之内也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也

十月

形代中

所也中

形也中

法藏人地料之義也前之所定法也力之定也其
文化亦大工度林其大也地料也信也其之連也貨物也
文也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
右也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
之也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也

外におつたは遠くより信じて来てもあるは定法と書
且合餌未く成り蔵人年尚村美飯形迄の所より仕
来にお蔵人外にお方より是未く成り蔵人外は又三不保合
餌を致し候て仕るは然れども是より方捕りて成るより
備へ候はば此書より改め

右に述ぶる方より又配下村に蔵人たよりて申下
二月十日
小川 右
廣徳寺の書

天保三辰年

所在日備貸浅く成り為る所定より方よりは天保三年お蔵
出にお本備へ送書より方にお方よりは先達より法蔵人地取
為り下ケは成りより日備貸浅く成り下ケは前条法

蔵人地料引下ケは準一と申下ケは

一並日備百石又丸

一所在日備時高依り下ケは成りて申下ケは

一概り申下ケは成りて申下ケは成りて申下ケは

一割合準一とお下ケは根下候

右に述ぶる方より又配下村に蔵人たよりて申下

二月十日

小川 右

廣徳寺の書

天保三辰年

郡代役並以来は御代目根下村に成りて申下ケは
より方より成りて申下ケは成りて申下ケは

二月十日

廣徳寺の書

太日行

志あり平港打方

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

太之色この後生る下

十月十三日

中 河千席

天保四年

楓師淡炮お借に在り其在遠上お教に茂太淡砲也譲
替法及形出は天於村元也譲勢元お借人此各
名而書進は進るお海所はは後を譲勢形出大淡砲
今此に指出此據代中其淡砲也了出用人中見分上
お後此後又も新此後又一切勢了中しり
一是進淡砲お借此後又形代中も裏中此はは後茂太役

中裏中不詳

右之通り多分は是取下高村は人たりしは後其多分は
中進て方りしり

九月十五日

小川左方

和田吾人

天保四年

是

町立の若夫父祖お方信上合子之向山下合之長吉子年毎
細中在りはは度出信約、 作出は舟苗已十月多来午
十月進火災之若斗山下合り止是進延享之来之合出下
らりは是後之昭和年中も是来之合斗山下合りり
太之色此後一りり中しり下

己十月

那代中

河津中

那代中

外紙西通書之振子子外西支配下岩村之り下連一有之下

十月十六日

一子坊衛古

廣徳島六之街

名一外紙西通書之内西下合以和之来之合下ヶ

之り之方西又而苗十月分来午十月連之義之之来

大之太振西改之来之り之有之来西西連西之来分之

以天火災之若斗(西下合之り西連之振万一吞之遠

之程之難斗之振之有之方為念中入之り西合之り
連之り之下

天保四年

申達

那代

只今之歲

沛意以通沛備子向累年以不之標之舟去未年

沛先代様嚴發由候約此為以之来申續

沛家督後も打續由候約由西之苗所申年張申之由當年

妻申之氣候不宣作元時長後之由申以上八月方之嵐其生

後追之之繁葉之障不熟改者之材方多狀之遠化

由成之由當年之苗之翼羽筋一統之不化之世上人亦以之介

不宣右類之米價引上之在町小苗之若大之及飢渴之由祈之由

實之至也其言祿之而難得之者小祿之而難及難養之
子也其言也其言祿之而難得之者小祿之而難及難養之
思古以方其後之義也其言也其言祿之而難得之者小祿之而難及難養之
會之也其言也其言祿之而難得之者小祿之而難及難養之
延也其言也其言祿之而難得之者小祿之而難及難養之
年之也其言也其言祿之而難得之者小祿之而難及難養之
用以也其言也其言祿之而難得之者小祿之而難及難養之

清者之也其言也其言祿之而難得之者小祿之而難及難養之
清者之也其言也其言祿之而難得之者小祿之而難及難養之
厚也其言也其言祿之而難得之者小祿之而難及難養之
熟和一政也其言也其言祿之而難得之者小祿之而難及難養之
仰出之也其言也其言祿之而難得之者小祿之而難及難養之

歲發也其言也其言祿之而難得之者小祿之而難及難養之
仰出也其言也其言祿之而難得之者小祿之而難及難養之
清制也其言也其言祿之而難得之者小祿之而難及難養之
妻子也其言也其言祿之而難得之者小祿之而難及難養之
取也其言也其言祿之而難得之者小祿之而難及難養之
思古也其言也其言祿之而難得之者小祿之而難及難養之
心也其言也其言祿之而難得之者小祿之而難及難養之
下也其言也其言祿之而難得之者小祿之而難及難養之
生也其言也其言祿之而難得之者小祿之而難及難養之
尤也其言也其言祿之而難得之者小祿之而難及難養之

是

一在二本松給人出技持方之內家內上下飯并之除物并之

分令拾五斗五升入武拾之儀、並辰之代令當時所定、
並辰之形物令拾五斗拾俵事、代令之掛引之形、
分引之方、

但並之形、日形、武家門大勢、而勢、方、而、杖、持、兼、
而、杖、持、も、不、由、而、も、引、方、不、也、
任、升、之、也、

一定府給人物米并令方拾五斗武拾俵事、並辰之、
代令之、當時所定、之、形、物、令、拾、五、斗、拾、俵、事、並、
辰、之、代、令、之、掛、引、之、形、分、引、之、方、

一定府給人物料、此言在、以、度、引、方、不、也、
任、升、之、也、

一、留、書、居、之、而、も、以、度、引、方、日、形、也、

一、本、松、丸、之、是、日、揚、子、杖、持、方、之、令、是、松、丸、切、米、之、
而、一、定、式、出、令、之、是、近、之、在、留、書、金、令、方、内、甲、之、引、之、也、

但、杖、持、方、引、之、而、も、是、近、之、出、米、也、免、之、也、

一定府越領之是杖持方之令、引、之、也、

但、切、米、出、令、之、是、近、之、在、留、書、也、

一、隱、居、之、而、も、嚴、禁、并、杖、持、方、之、令、是、松、丸、切、米、之、
但、江、戶、二、本、松、丸、之、日、形、也、

但、江、戶、二、本、松、丸、之、日、形、也、

一、江、戶、二、本、松、丸、之、是、出、令、米、之、近、之、出、令、一、倍、也、

一、小、普、請、之、是、是、之、令、之、是、引、方、之、而、も、以、度、之、
増、掛、物、不、也、
任、升、之、也、

任、升、之、也、

一、二、本、松、丸、之、是、松、丸、之、而、も、是、近、之、出、令、一、倍、也、

一、所、在、知、形、之、令、若、并、他、所、給、人、及、所、在、地、形、替、米、之、外、
杖、持、方、俵、數、之、米、之、若、若、之、而、勢、方、之、令、引、之、也、

但、他、所、出、入、杖、持、并、所、在、添、杖、持、之、若、も、日、形、也、

但、他、所、出、入、杖、持、并、所、在、添、杖、持、之、若、も、日、形、也、

一 是是之而之在為也 仰付之出立之月方故金米出免之
但出立前引之言を不及判込之

一 小川古之技持方之古引移新之言引之
但定式出金之是近之色は古也

一 山田負之助丹羽由己并拾人技持之上之而之技持方之内
家内上下飯米を除ケ跡ノ米之令拾得ル斗斗金拾
之儀之重辰之古一當時由定技持方重辰代金免
積ノ持引之石ノ引方之

但技持方お切當時由定之重辰上ヶ下ヶ拾又重辰重
生銀之担ハ力之良古判金古也

一 切米力之而之定式之出金是近之色形重技持方
斗之而之是近之出米也免之

一 七人技持之是物料切米付之而之重辰判金之是引方之
但定式出金之是近之色は重辰以上技持方斗之而之出
金一倍之

一 国安坂四席技持方之内式ヶ下ヶ引之
但是近之出米也免之

一 山田勇之助越前之是切米重辰技持方之古引切米金
引之

但定式出金之是近之色は古也

一 給人之物料之而之移新之内米方之古引之

一 別辰内合力加之重技持方之而之古引之

一 役技持并役新之而之古引書物新事之引之

一 古社料并并技持方之古引古院新事之古引之

- 右田長左衛門下勢方並引...
- 代官の代料之方並引...
- 形代形等引并代安石所追材料之方並引...
- 決死師の配之方并代色跡市大原院助玉某料並引...

右在二本松給人敷内飯米を除却し米之方大元平年之
 去辰、見積り當時、由定、由形去辰、持引銀分引方、
 引方、其外、法後方之是切米未之由進右、準引方、
 米米且、江戸表之為、他向、對、以勤、能も多、結、非、為
 之、年、柄、法、取、も、之、由、何、も、不、幸、二、本、松、之、持、合、と、之、り
 留、り、以、長、之、方、之、幸、二、本、松、引、方、の、一、等、ゆ、り、の、引、方、又
 沙、米、二、本、松、引、方、之、持、合、前、米、之、由、進、右、已、九、月、分、米、并、引、進

増掛物、引方給人、持持方、定府物、成米、在、由、極、月、後、之、而
 引、方、引、沙、米、以、右、右、後、米、之、引、方、不、足、之、分、之、由、已、納、月、後
 米、米、九、月、後、米、之、内、之、以、勝、又、次、米、之、持、出、之、然、以、持、持
 出、上、納、持、又、之、而、之、持、進、米、并、九、月、後、米、之、内、之、以、右、不、足、分
 以、夜、之、由、勘、定、去、辰、持、由、之、由、引、方、之、且、持、持、持、持、持、持
 引、方、之、分、之、由、已、十二、月、分、米、并、十、月、分、進、月、之、引、方、引、米、之、由
 出、合、米、も、右、準、以

以上
 天保四己年十月

天保四己年

光

一 博考板

(幅考尺 長三尺考寸)

一 考切考把

(考尺 考生 考短)

一 細本

(長三万考尺 目五寸五考寸) 考本考人考

一 月

(月長考万考尺 目五寸考寸) 考本考人考

一 月

(月長考万考尺 目五寸八考寸) 考本考人考

一 根考本

(月長考万考尺 目五寸考寸) 考本考人考

己十二月

天保四己年

光

一 時考清 不月考

清敷内考右 考敷考以 考園考波 考右考園 考池 考以 考時考清 考是 考追 考追 考撞 考考考

考考考 考考考 考考考 考考考 考考考 考考考 考考考 考考考 考考考 考考考

己十二月 大月付中

天保四己年

光

清在城中 考考考 考考考 考考考 考考考 考考考 考考考 考考考 考考考 考考考

正月元日方日号追

五夜夕

八夜

终夜

大船より生る障持りし中

涉強初

茂介

玄格

歳暮

太夕七ツ半の障持りし中

障方左に在

沸城大鼓櫓に拾大鼓ニツ折大船知る障持費に障ニツ

持りし中

右の通に生る意は中より西に向ふて下りて下

己十二月

大目分中

天保五年

計道組村一統及困窮の上去年凶絶に米別難儀に
辨、去年竟を心取らば此は為西無妨も一有る如く
以、沸城を以て別立と米太組代計道村に在候は
仰付役完出来次第引残村に難儀に次第改定に取調多
年、其弊を所存し、おそれ根は、信出の所書に在
候心付り申上りて下り

一 田代安收宅并花斗屋代花為地代收前之地而足分
之上引地計來下普法方之長材本之正村以林之計下
入費之長之材方持之計下然其難微之材方一時持出
其も其來也其計下付付度之上引出令以引替之下上
方之長之材方痛之其長收根追之計下其長之材方下
計下

但花坊之長之先當分是追之計下其長之材方入木之
長之計下 上之計下其長之材方其長之材方其長之材方

計下

一 湯收納米之長是追之計下五斗入儀之計下計下其長之材方
其長之材方運送方之長之材方又計下其長之材方計下其長之材方
一 田用米花之長是追之計下其長之材方其長之材方其長之材方

計下

一 稗花之長是追之計下及計下其長之材方其長之材方其長之材方

一 村之固窮之計下其長之材方其長之材方其長之材方其長之材方

一 而斗之計下其長之材方其長之材方其長之材方其長之材方

一 受配之計下其長之材方其長之材方其長之材方其長之材方

一 役宅若花は地而其長之材方其長之材方其長之材方其長之材方

一 自多其當分其長之材方其長之材方其長之材方其長之材方

午二月二日

三浦又左

子羽曰席者

流尾係古史夜

掛

伊东市席者

吉友席者

武友席者

杉内丈三郎

小池七席者

天保五年

光

去秋非老之遠地之山飲中一統及雞長小亦負窮之老老也

飢餓之也及我之空寂深之沙遊

沛心痛非老之清叔每出修法大也 任出村之莫大之

以入費之也不思乃厭隣國并幸國分也米出買上出備

沙米出買上出備 城之也亦強之存分之却合之出當他乞

近年之也之豐熟在沙米米價也以下之諸民一統凌波

宜為之甚以沛安也 思言以天年之豐凶之亦候

於不火之也之也之人力之及也之也之也之天情弱等困

之也之也之也之也之也之也之也之也之也之也之也之也

思言以沛安也 思言以天年之豐凶之亦候

美小亦之也之也之也之也之也之也之也之也之也之也之也

心無之也之也之也之也之也之也之也之也之也之也之也

以桑為之材役人太也勿備也之也之也之也之也之也之也

心之長一七利一汝少中

右之邊汝汝生之志小多之者有止之原存中困穀心汝不
息振意度下中後代存中トリ夫之トト連下之原存中

乙卯月

那代中

町事抄中

那事抄中

天保五年

申達

涉勝之向累年山不主操之上年米為之遠地并彼是
此修信有之施多之不容易莫大之此物入有之以上言

涉收納米等大之減付其之至之極之此は借涉言書
為之付

涉前涉裝束料を指

上之極也合力之内之也此方

此 仰出嚴發也信約之存以の上不之存以之要事
又公暇年之準一取増更相之 信升之信之別紙割合書

お後之旨去り未年

涉先代様涉改革之 信出之立序り美増嚴發五律

何分也信約備不池撤之改辰之 信出

割合書

一二本松給人扶持方之内家内上下飯米を除妙并之内之在
通之割合書之引方之 信升之志太之知知之并齊

上下人殺之徒以右之別合之引方之なり

言冬千石 内身内式人分除

一家内上下二十六人之飯米を除妙米之内より七拾七石式斗米
六合三夕六才引方

言千石

一家内上下式拾或人右日引式拾之石七斗米九夕七才引方
言六百石

一家内上下拾或人右日引拾五石斗米七合或夕七才引方
言三百石

一家内上下拾或人右日引五石七斗九升或合七夕三才引方
言百石

一家内上下四人右日引四石之斗米斗合或夕才引方

此左邊之面より日引也 一家内大勢より勢方面に投給并
而投給も不當面より引方不し 投給外也

一家内上下九人之飯米を除妙米之内より飯米を除妙米之内より
別合を引方不し 投給外也 知知言
一家内上下人殺之徒以右之別合を引方之なり

言三百石 内身内式拾或人

此之百五拾石言より内身内式拾或人又知此言五拾石
七合方候之付之百石米方より引方

一家内上下九人之飯米を除妙米之内より拾五石之斗米九合
九才引方

言百石 内身内式拾或人

一家内上下九人右日引或石八斗四升六合五夕二才引方

一 定府給人枋形込言たは度、川方不々、信付中

一 留寄居之由、とけ度、信付川方日引中

一 二本松惣領之是、同婦子枋持方五ヶ寺引枋形并切米此
下、而、定式出合之是、近、色居、合方、内、六ヶ寺引中

但枋持方汁之西、之是、近、出米、出免中

一 定府惣領之是、枋持方六ヶ寺引中

但切米出合之是、近、色居、合方中

一 隠居之西、上、歳米、枋持方、所、言、於、之、寺引中

但江戸二本松、日引中

一 小普清之是、惣領之寺引、割、引、方、方、之、而、之、是、け、度、
之、枋、掛、物、不、々、信、付、中

一 江戸二本松之是、出合米、是、近、出合米、信、付、中

一 江戸二本松之是、徳橋料、之、而、之、是、近、出合、一、信、付、中

一 所在、知、所、之、若、并、地、不、給、人、及、所、在、地、形、勢、米、之、枋、
持、方、債、殺、之、米、力、之、若、形、之、不、勢、方、之、寺、引、中

一 他、地、所、由、入、枋、持、所、在、所、枋、持、之、若、日、引、中
音、是、之、由、之、立、當、之、信、付、之、若、出、立、之、月、方、出、合、米、出、免、中

但、由、立、引、引、之、之、不、及、割、返、也、本、松、立、當、之、而、之、日、
引、中

一 小川右之枋持方五ヶ寺引枋形込言たは度、川方不々、信付中

但、定、式、出、合、之、是、近、色、居、合、方、中

一 山田貞之助、母、羽、由、己、并、枋、持、人、枋、持、之、上、之、而、之、枋、持、方、之、内、
家、内、上、下、飯、米、を、除、米、之、力、を、給、人、日、引、之、割、合、之、寺、引、
中

仕格料切米者之而之仕定式之出合是近之也此右重
技持方汁之而之仕定式之出合米也免之也

一 七人技持之是格料切米者之而之若米割合之也引方之也
仕定式出合之是近之也此右重以上技持方汁之而之也

出合米一倍之也

一 國安後四席技持方之而之仕定式之出合是近之也

一 山田劫法也飲之是切米者之準技持方也之也引方之也

仕定式出合之是近之也此右重以上仕定式之出合是近之也

一 給人言格料之而之格料之而之仕定式之出合是近之也

仕定府給人日引之也

一 列長合方加之是格料之而之格料之而之仕定式之出合是近之也

一 役料之是役技持方之而之仕定式之出合是近之也

一 古社料米若技持方之而之仕定式之出合是近之也

一 古田長左之而之仕定式之出合是近之也

一 与方之若而格料之而之仕定式之出合是近之也

一 代安之代料也之也引方之也

一 船代船車之若代安石所止材料也之也引方之也

一 決死師範之而之仕定式之出合是近之也

一 本江戸二本松給人前門飯米を除物米之而之仕定式之出合是近之也

一 割合之也引方之也 仕定式之出合是近之也

一 本準之引方之也仕定式之出合是近之也

一 多味之非者之年柄法也之也仕定式之出合是近之也

一 合之也仕定式之出合是近之也

引方之本二本松沼谷之類前案之趣當年九月の未
八月迄増勘也 任丹給人持持方定府相案案在苗
極月後米より引取ら未且持持方より引取ら未且苗
分分米年十月迄月より引取ら未且出令米も亦準の

以上

八月晦日

天保六年

免

所城下米種屋大正年賣神向不致合不致標之仕入不
仍而米種拂底医作中病用持支の振取方は人命も
均に養難也也拾並 上り此の法に付是れも仍た度

米種屋大正山下今は城下不制有之義醫師中は持圓入念
致以味之惜仕入致並医沙中持支之振賣買之致也
尚も持之約定七勿海返以亦も益當二季之拂方等
万一滞の族も方より之長役筋も亦も下出山此の上
拂方お病の振と之来りも米種屋大正中身も万医沙
中も之之心は致一月中漢不制有之義持圓は致仕
入仍致並持支之振と致の振支は年拂方滞の族も
万の者も米種屋大正のつ仕入も不仍而式之振も
亦方は此度山下今は米種持支之振と米種山下度
滞振意の上は拂方未滞の振も義方より出取ら未
万の心は致の持支之振と致の振と致の中
太の趣也 任丹は方より持支之医沙中も亦も下下下

形代中

右之近医沙中ト申連クモ持又之振去年度
清熟之ニテ下ケ今ト申リトモ其種屋大ニ品制有来
之民医沙中ト持圖入念改以味ト情ト仕入改立医沙
持又之振下波又之勿備以意ト書ト不波取取又下立
之賣買下波又山城下其種屋大トモ精ト申リ以辰所
在医沙其其種屋大トモ其心以下ト申病下

未七月

所事形中

形事形中

天保六年

吉余村境川穀苗苗不是近穀苗之苗吉余村境川
以八丁目省山谷分お米以八丁目村ト申建以右一組ト申
續兼以八丁目組組川組八丁目組之組持以波又辰之
村方ト申連立八丁目村ト申建以右一組ト申建以
右ト申下

九月廿二日

吉田去右

天保七年

是

法家浪人之傳云武藏おの地ト申ト申院ト抱お米出飲
所ト申住居波以右ト申力ト申法浪人之傳ト申地下ト極ト申
不お米勿備常刀ト申波以右ト申百姓ト抱ト申お米兼以

清前代様殿發涉侯約は爲行の事來并續涉家督後
涉侯約は爲行當時九年法中はは當年去中一より
事候不直能毛時最後は來れ上七月中旬の風雨際
不熟致し皆を村多く非爲の遠能も來出收納
方若大減出家中の事はは後亦不足は來出
普向は一月當來一切を遣は出言お立爲り各出掃り
方中より中へ去り今年夏期一統の遠能舟候是
非爲の由修法由立り來立何出救出由當未若大に入
費方の上去年毛も不熟致し不中出換乞に乙巳年
以來引續りて遠能出言向必止り出指支出九月より
來八月迄は出言向積り由來爲り而巳候はは當年遠能
より出救出由當年必止り出指支出連り候

清以勢も下は爲開程之際は法以上出文殿發出侯約
は來出爲り中より而も勢方より内より出借り用は當年
ゆかりをに或は一日より候中より近年拂物、 仁舟並
以上乙巳年五年并續指支物、 仁舟又、
當年拂物、 仁舟は不仕に候也
思下候はは有力の由是許出爲指支來は或は少出殿
不年来は方ゆかり 法は爲指支もは爲指支候は出言
向是指支發出有候と來は何指支もは言向出指支物
未不、 仁舟は指支來年度其心候も存換漢漢に候汁
方精々、 仁舟は太 思下、 仁舟は法を主極り
以義に其はは天の收納方若大にお減り候は何指支
操合に候は若大は不足はは出言向中より出候方由上

米茶以後之類は根之有汁出米煮生飯再煮上は汁不
已為之其方前中之意に可勢方之内に其出借用以は其
外之也 思石は當年之義も米價物少之言是亦分一
割合之云々福之云々不取門之多少之施(去巳年)
信出の割合準之一般情物也 信石
佛前法多存之義を教重も出取
佛真極 寺限換 松寿院換出人力之内に其出借
用は之取以上差増換外は有取之取は米中其意
生心法多存之義も貨素之致 寺候約書不續精勤
之致は施也
佛前も佛多存之義も出書向生外差増換出貨素也
佛平日也 原物之内に其出有取之取は信出 信出

原 思石難有の中は依出候約節之義候節之義和
一致に其談研 言意之趣下其汁候之也出候約節不在延根
一致候也 信出之其後飲食者信婚節雨多持又其有
之其汁内制系之内に其追之也池之其心候遠之族有
有之其子之其花英流 飲食者信婚節之義も其重
雨多送而之其力之其也其父心候遠之其也
思石の其又右候其後飲食者信婚節之義も其列候其也
也 信出の其意度一其也其心候遠之向之其力之其也
一及出少情系意之其心候遠之其也其心候遠之其也
其建出書其病之其心候遠之其也其心候遠之其也
中候
一 佛 意之其通其候之其大組量之其也其心候遠之其也

依吉田長左門上等郡代中下候小納戸小姓中上等郡中
下中候太田清徳仙道可自刃定下お勤願下進下下

是

一当年非老之遠化方中收納方等太之出換之出来出等而
必止之出指支之付当所出候約四年流中其流大出又当九月
方来为八月迄嚴敷出候約也 信出出等中其西下不勢
方之肉之也増食之也 信出之也 太田島田中夜夜
昔信贈答客来之来在之通也 信出之也
一在彼式立出流之太藤彼彼縁彼お用之義持之流之也
但信布出信止之来出之也 信出之也
一在在定客来未お流之義持信止病用又之在持用候也之而

親疎より一様奉合の義方より其合誼之世話之流之也
致はむ吉凶之被義方より其来支之流之也
一親子兄弟之介昔信贈答客出信止親子兄弟之在也
将平承承可致也

但医沙之業礼也之在也一師範生也之在也
謝義之流之可致也
太之也 信出之也 其流之也 其流之也
其流之也 其流之也 其流之也

申十月

番匠中

小普清匠中

足

一二本松給人扶持方之内家門上下飯米を除跡米之内
右之通割合を引方に 任丹右太之介也知事言
并家門上下人敷之陣以右之割合を引方に之

言三千石 内与力或人分除

一家門上下之控六人右之太人言飯米を除跡米之内
百七拾七石引方

言千石

一家門上下武持或人右之太人言飯米を除跡米之内
五拾三石引方

言六百石

一家門上下控六人右之太人言飯米を除跡米之内
五拾五石引方

言三百石

一家門上下控八人右之太人言飯米を除跡米之内
七拾五石引方

言百石

一家門上下控八人右之太人言飯米を除跡米之内
七拾五石引方
但右之太人言飯米を除跡米之内
而扶持も不齒也引方不に 任丹右太之介

定府給人物成米方之内扶持を家門上下飯米を除
跡米之内右之太人言飯米を除跡米之内
知事言并家門上下人敷之陣以右之割合を引方に之

言四百五拾石 与内扶持控五人

一家門上下控八人右之太人言飯米を除跡米之内
五拾七石引方

言百石 与内扶持五人

一 家内上下九人迄は右日引七石七升七合或は八升引方

但惣取言是之而も其家内之人教は江戸本松林之冬言は終上之

一 定府給人松料上言は其方五分五ヶ是引之

一 苗書居之而も其度は 位出引方日引之

一 二本松惣取言是日婦子扶持方早引引松料并切取

之而も定式出合是是進之每四疋重合方之内引是引之

但扶持方引之而も其是進之出来出免之

一 太日引惣取言是小普清之而も是進之小普清引方

出免出上七引之

一 松田少作酒井一陽二本松惣取言是并引方引之

但立為之者其引之引方引之

一 定府惣取言是扶持方其引之引之

但切取出合是進之進之出所是之

一 隠居之而も其嚴兼并扶持方其引之引之引之

但江戸二本松在日引之

一 江戸二本松言是定式出合其扶持之

一 小普清言是進之引之引之引之引之引之引之

物不引之引之

一 江戸二本松言是法松料其引之引之引之引之

但定式出合出免之

一 所在知引之者其若他而給人及所在地形勢并其外債取

扶持并其者其若其不勢方下引之

但他所出入扶持并所立派扶持之者其引之

一 每是之而も其引之 江戸二本松出合其引之引之

但二本松在苗之由日引を出立方引言其利返不及也
一彼社友と羽本々々小川左へ枝持方引下引引材料止言切
米瓦、四ヶ等引言

但定式出合を是迄之迄に由居言を立為之由之由
後より引方言

一浦井右伊伝掃枝持方引言

一山田左仲 母由由已并移人技持方上之由、技持方之内
内上下飯米を除飯米之内言給人月振之利合之引方
但移利切米言之由、定式出合是迄之迄由居技持方
引言之由是迄之由米出之由

一七人技持方是移利切米言之由、移利合之引方
但定式出合是迄之迄由居之由

一丹羽菊治山田勘治越飯言是切米在、準技持方引下引
勘治切米合も引言

但定式出合を是迄之迄由居之由出米出之由
在苗之由若下之後方引方言

一因安茂四席技持方之内言引言

但是迄之由米出之由

一成田貞茂和田光十席丹羽就之席技持方之内引下引
引言

但定式出合出免言

一五人技持方七人技持進技持方引之由、是之由、定式
出米、武信坊言

一人給与給人移利之由、材料之内米方之引言

但定府之面引方日引

一 別匠合方之面引方在色

一 役技持之面引方在色

一 拾人技持下之引

一 五人技持下之引

一 三人技持下之引

一 吉人技持之引

一 如之量技持之面引

一 役料之面引

一 書物料之面引

一 吉社新米并技持方之引

一 吉田長左之面引

一 吉力之吉不勢方二本松給人日根引方

一 代發之代料甲之引

一 形代形之代料甲之引

一 淡砲師範之面引

一 右江戸二本松給人家門飯米之除砂米之内

一 別合之引方

一 引方

一 非之引方

一 可之引方

一 二本松江戸之引方

一 物之引方

一 引方

一 引方

并九月依本之内若拂手次第一と抄出、且杖持方若川原分ハ
尚申十月分方来者十月分近月、山川原之来出合年、大準
以り

以上

申十月

完

一町在之若夫父祖少分山代上重、合子之内山下合之長吉已
年、委細申達重、長吉度嚴敷山後約、
十月分来者十月分近、火災之共、斗、山下合之長吉以和年
申方来者、分斗山下合之長吉、右之長吉、
大之通、
申十月

那代中

町寺中

那寺中

完

山拂子、西累年、山不多操之上、当年非、遠地、
引續、送絶追、
至極、
申十月

佛前清浄供養料を給

上之極也今方之内等一級也方々 任出嚴密也候約法

為行以上不修也凶象中 坊島物々 任付以依之在之通

以候上之奉り申

一 扶持方等之引

年番名之在

太之通之治定之末之下申候下

申十月

形代

天保八酉年

大目付也

当二月十九日不容易企て申上以大坂市中祈之放火

及乱妨以大塩平八所大塩格之助并太之折換法之若夫

以割不知知之身生次才人相言を以追之觸立法平命

父子且濃田海之助後色良在是道友梶五所庄司義在也

百捕又之自滅未改以方太之若夫家早お尋不及也大

井正一席河合也在之義也沐之池以お尋於之家早お

觸以通一お心治也

乙巳月

太之通之にお解也

天保八酉年

大目付也

百姓何人賣荷之宮門以當上方生外重之取柄之修并

手裏を以借交旅以改以義之難お成長生外賣人

之荷物之存持荷物之文之根正傳延享之夜来

成之解位重之近年在池之賣為之武家或去宮門改
崇上方未之為物之辨仕成之又百姓所入之方不而
右之由之由來抄之中集一施之法之生之賣為
之應抄前之吏之數万之方之板抄之不而之
榮之後太辨之取斗減之明傳之上生若之勿痛給
并先解法賃性貸之共進急度下之
右之由之由解之

五月

右之由之由 公儀之 任由之方之始生之意之
未之進又之下之由之由下

大目分中

天保九戌年

侍巡之使當年以下之由摸振之身那代那在江中石砂
右之由之由之 任由之方之始生之意之
五月十三日 平 侍之傳

浪川組村

名之由

天保九戌年

山之内之苦天根之清苑可持波之由生申之判禁之由
之由未之由流浪清苑可持之苦救多力之由板之度乳之上
之由教清苑可持之苦天丈之由各之由保多年之由流弊之
不之由海之由計之不之由以自然之由遠波所之苦茂

之が法砲所持をいつて次勿海生か其に而信山は
 生而之地区代有るお改法砲所持をいつて上ノ捕沙
 云珍法砲所持を軍を地区代有る札に付其法砲之
 之名を書付お改之領人之貸返をいつて其用之に
 中が其改遠肖法砲之所持宜敷不其山所之位
 其ものありて了り却て磁鉄石科と中ノ
 此儀員了り自然隠之至他地方ありて了り又お改
 此法砲之上生而之領人此處にて以罷科は急度
 了り了り其之

右之邊寛文二年お解之は三年根お其陰法砲所持を
 有る其お改を捕沙之れは山家村に捕獲業營其
 して有る生余山下位并其松廉戒為所持改其事

此の改方字用におおて生村役人有る城度条法砲
 所持其有る苗成五月九日迄之官閑条法砲所持
 立並組合惣代其方、改而条、生初所條書改其
 一お改出村の官本札に付法砲之名面を書付抽出改を
 文右之長支取の代發給之地区、中並法砲改之有る
 定法之邊法文抽出給人之貸返をいつて其用之に
 之方樂了り了り且大組合お其のにおおて生有る
 地区右五月九日根之振合之有計了り其之
 四月
 右之邊此料お改其社給其不儀振下にお解

天保辛亥年

天保十三年

若殿様清名

五席左邊の様は清改被遊

清實名

長圍公之法進より方以部序一未進指合又字にお改より

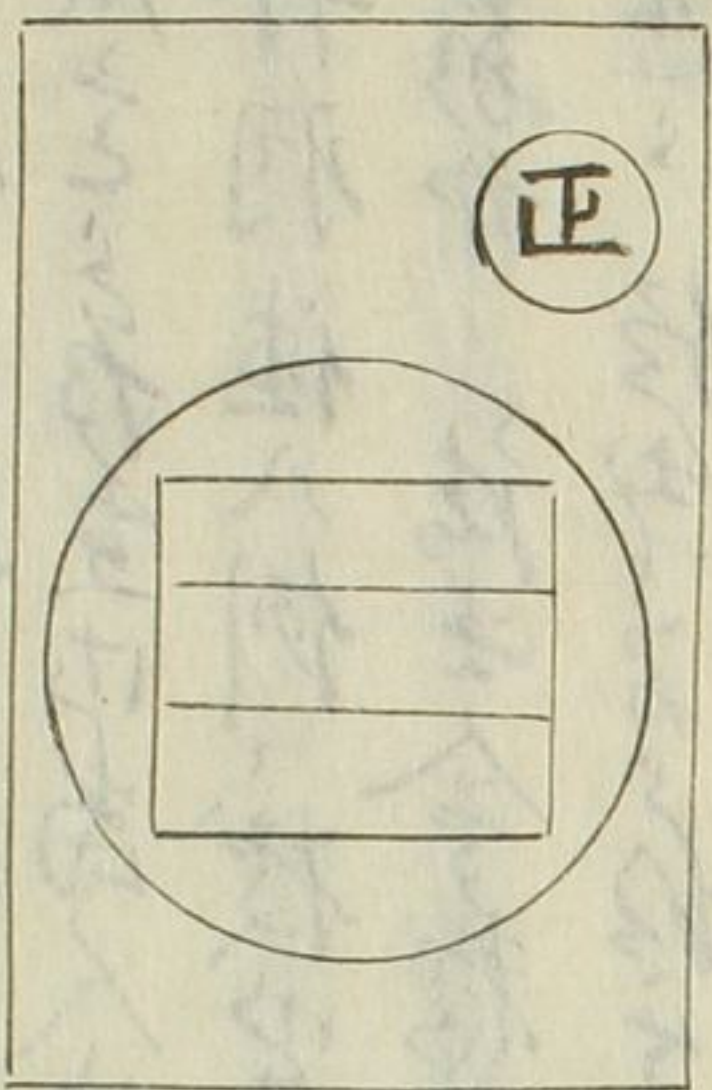
太之進より進之より部中より而より一より進より下

大目身中

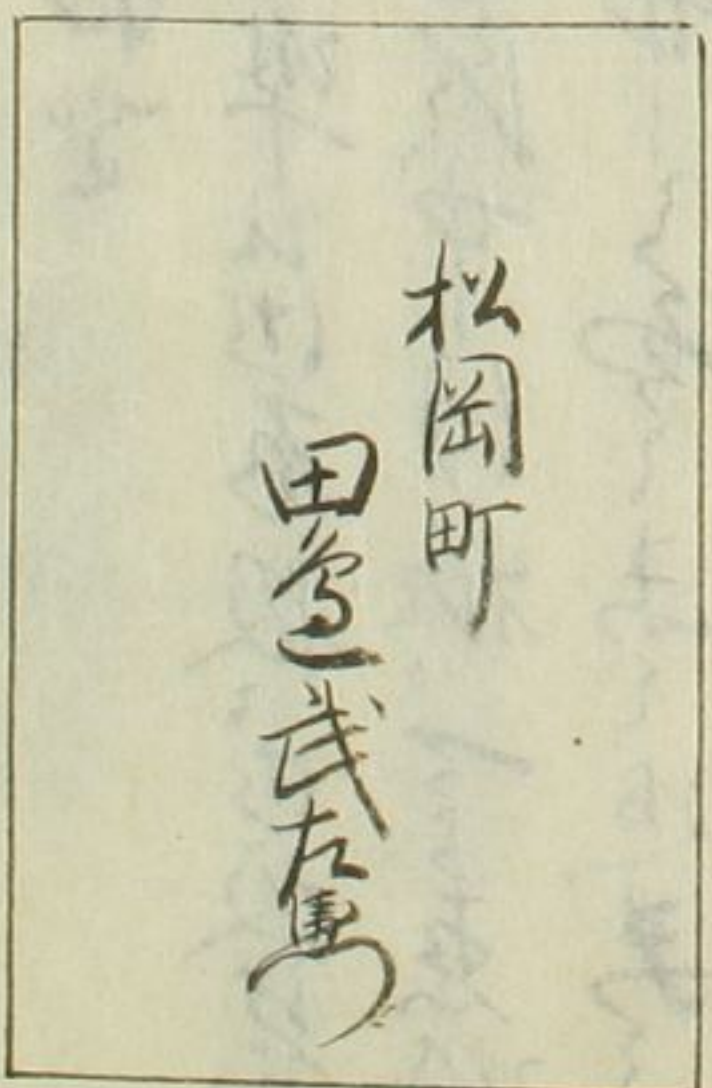
天保十三年

焼中札の写

表



裏



見

一松岡町田邊武左衛門は松岡町に於て焼中札の試法に於ては
村役人並に家老の役を對不若を焼中札の試法に於ては
之若くは場を對不若を焼中札の試法に於ては
之若くは場を對不若を焼中札の試法に於ては

亥四日

那代

四代吉布

天保十亥年

是

雅之助殿山形扱向厚キ
所ノ扱之と存立山南人成立ノ扱を
思百丹羽值八例ノ扱以朱為以準山形扱以改其
依山形中 治士令釋ノ扱為以中何扱ノ扱
右ノ扱ノ扱 依出ノ扱ノ扱山形中ノ扱ノ扱
ノ扱ノ扱ノ扱

亥六日

大目吉布

天保十亥年

他亦出扱扱局ノ扱ノ扱以是方扱出免其朱以是地亦入扱
も不ノ扱以扱以是扱出子方以是配下扱村ノ扱ノ扱

七月晦日

三切吉布
寺田信吉

天保十亥年

山形内ノ他亦入扱出扱ノ扱ノ扱以朱以免以方先事以中以是
並下以是地亦入扱ノ扱ノ扱以是扱出扱局ノ扱ノ扱以是扱出扱

一山形地境村ノ扱村為以中以他亦以地亦以通扱ノ扱

概々舟重なる方々
一出穀之長を是近く是不苦なり

太く色は子多し又配下は海村より遠く舟重なる方々
心は遠く若くはより嚴重に各々
概々舟重なる方々

三月

吉田云々

天保十一年

此度物支配不村より荒地多し切下起し近方
此仕法由府内各宿若くは坊人は必白川郡
畠田村、移重なる目より衣取未通用為致耕化生山
此概々舟重なる方々は第一近き由内村より

いり尺尚し此村方より若くは坊押重なり
不及坊浅川より陳屋并畠田村小屋切下
此代方より出た又々向東此支配不村
此より大橋より此方より坊押重なる方々
此より小苗より此方より坊押重なる方々
村者非人若くは坊押重なる方々
此方より友なる村より此方より坊押重なる方々

亥十二月

天保十一年

是

公儀法意由用御名指し此正年此飯内より

以用為中村長使年代之收及止為人是未お用威徳方
發發亦方之方

以後由是引下出同由來以法餌為指之義を根國分
立入為殺生難來の難方之之來右辨之其方之
指押並引之由引の根出指國方之之方取之由何之
お來引之引下引下後右辨之若由引下立入為根之
義中分の夫義之連も方之之方役の由不取同の之方
汁お來引之根中連主之若根子引之由引下連引自
分方下引之根為村之役人下引之引下連主之方引

二月十日

那由那

四代岩中

天保十子年

自分大菱毛捨元供為替持之内百連來之變當時村之由
引之由由追之 任由之次方も方之引下當年分改而
以來為之由役之若若人死供中引百連引下引下引下
村之引下引下引下引下引下

子由月

武田伊左

天利十七年

Handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side of the page. The characters are faint and difficult to decipher.

Blank page with some faint, illegible markings and stains, possibly bleed-through from the other side.

